

## P-36 妊娠中イベントの世代間継承についての検討

## -妊娠高血圧症候群について-

○三戸 麻子<sup>1</sup>、荒田 尚子<sup>1</sup>、坂本 なほ子<sup>4</sup>、川崎 麻紀<sup>1</sup>、佐藤 志織<sup>1</sup>、  
小川 浩平<sup>1</sup>、堀川 玲子<sup>2</sup>、村島 温子<sup>1</sup>、大矢 幸弘<sup>3</sup>、左合 治彦<sup>1</sup>

<sup>1</sup>国立成育医療研究センター・周産期・母性診療センター、<sup>2</sup>同・生体防御系内科部内分泌・代謝科、<sup>3</sup>同・生体防御系アレルギー科、<sup>4</sup>順天堂大学・医学部・公衆衛生学教室

【背景】母の妊娠高血圧症候群(Pregnancy induced hypertension: PIH)の既往は、娘における PIH 発症のリスクファクターであることが知られているが、日本人における報告は少ない。我々は妊婦または産後の女性自身の出生時の母子健康手帳データを用いて 3 世代家族(母・娘・娘の子)調査を行うことにより、妊娠合併症の世代間(母・娘)の継承について検討した。

【目的】親子間(母・娘)で妊娠合併症、とくに PIH 発症の関連について検討する。

【方法】国立成育医療研究センターで 2003 年より進行中の出生コホート研究である成育コホート研究・母子コホート研究・多重コホート研究参加者と当院の合併症妊娠外来受診女性を対象とした。そのうち単胎出産で、かつ研究参加者(娘)が出生した際の母の母子健康手帳が得られた女性を解析対象とした。母子健康手帳から得られる母の妊娠・出産経過と研究参加者である娘の妊娠・出産経過を比較検討した。母の PIH 発症は母子健康手帳の血圧値記載で収縮期血圧 140mmHg 以上または拡張期血圧 90mmHg 以上を 1 回以上認めた場合と定義した。娘の基本情報や妊娠・分娩経過は電子カルテより抽出した。

【結果】成育コホート 308 組、母子コホート 973 組、多重コホート 27 組、当院の合併症外来 28 組、計 1336 組のうち欠損データを除いた 1282 組を解析した。1282 名の母のうち PIH 発症は 303 名で、その娘のうち 19 名(6.3%)が PIH を発症していた。正常血圧妊娠の母 979 名の娘のうち PIH 発症は 29 名(3.0%)であった。母の PIH 発症の娘の PIH 発症に対するオッズ比は粗オッズ比で 2.2 (95%CI: 1.2-4.0)と明らかなリスク因子であることが明らかとなったが、娘の妊娠前年齢と BMI で調整後、リスクは消失した。

【結語】PIH は世代間で継承されていることが日本人においても明らかとなったが、PIH 発症においては本人の妊娠前情報(年齢・BMI)の関与がより強いことが示唆された。